

ふうせんバレーボール

(全障スポ・オープン競技)

競技説明

ふうせんバレーボールは、リハビリやレクレーションとして活用されていた「ふうせん」をスポーツへと発展させた競技です。

「チームの全員がふれてから相手コートにボールを返す」という全員参加の概念をルールに取り入れており、子どもからお年寄りまで年齢も関係なく、障がいがある人もない人も、誰もが一緒に笑顔で楽しめるスポーツです。

まっすぐ打ったつもりでも横に曲がってしまったり、失速して下に落ちてしまったり、どこに飛ぶのか、どこに落ちるのか、わからないところがふうせんバレーボールの面白さです。

ルール

直径40cmのピンク色のふうせんを使います。ふうせんには鈴が2個入っており、音でも位置を確認することが可能です。試合は1セットで、15分の時間制限が設けられています。15分経過した時点の獲得点数もしくは制限時間内に15点先取したチームの勝ちとなります。コートはバドミントンと同じ大きさで、障がいのあるプレイヤー3～4人と障がいのないプレイヤー2～3人の1チーム6人制です。

選手全員が必ずボールに触れ、規定打数10回以内で相手コートに返します。1人2回まで触れることができますが、連続はNG。アタックなどジャンプをして打ち返すこともNGです。途中、車いすに当たるなどしてふうせんが割れたらノーカウントとなり、サーブからやり直します。